

臨床研究 に関する情報の公開

CIDPで当院を受診・入院・通院された患者さまの試料・情報を用いた
研究 へのご協力のお願について

項 目	内 容
1. 研究課題名	CIDPの第一選択薬に対する治療反応性の電気生理学的予測因子
2. 研究の対象者	2013年5月1日から2025年9月30日の間に、当院の脳神経内科にてCIDP治療を受けた患者
3. 研究期間	倫理委員会承認後 ～ 2026年7月31日
4. 研究実施体制 研究責任者 共同研究者 共同研究機関	関西電力病院 脳神経内科 津崎 光司 同院 脳神経内科 一柳明希子、三ツ井吾朗、長岡紗由、稲垣泰申、上原尚子、和田晋一、濱野利明 無し
5. 本研究の意義・目的	神経伝導検査（NCS）は慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー（CIDP）の診断に不可欠な検査であるが、複合筋活動電位（CMAP）の振幅、面積、およびCMAP振幅の合計が、CIDP患者の臨床転帰スコアと関連することが示されているものの治療反応性の予測におけるNCSの役割については十分に解明されていない。本研究にて、CIDP患者における第一選択薬に対する治療反応良好群と不良群で治療反応性を比較し、有用なNCS因子の発見を目的とする。
6. 研究の方法	過去起点コホート研究として行い、診療録から必要な情報を抽出し解析を行う。
7. 研究に用いる試料・情報の種類	診療録より、年齢、症状、血液検体結果（HbA1c、IgG、IgM、IgA）、髄液検査結果、神経伝達検査結果、神経エコー、MRI、転帰
8. 試料・情報の保管方法と廃棄方法	施錠可能な部屋内のパソコンを用い、パソコン本体及び解析に用いる電子ファイルへそれぞれ異なるパスワードを設定し、厳重に管理する。研究発表後5年間保管した後、完全に廃棄・削除し、複数名にて確認する。
9. 個人情報の保護について	情報収集には、診療IDや患者識別コード等を用いることで匿名化されています。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者へ知られたりすることはありません。 本研究は、既存の診療情報を用いて行う後ろ向き研究であり、研究対象者から文書または口頭による同意を得ることが困難なため、オプトアウト方式にて実施します。研究への参加を希望されない場合は、11. 問い合わせ・苦情等の窓口へお申し出ください。お申し出いただいても、診療等に不利益が生じることはありません。
10. 情報管理責任者	関西電力病院 脳神経内科 津崎 光司
11. 問い合わせ・苦情等の窓口	関西電力病院 脳神経内科 津崎 光司 大阪市福島区福島2-1-7 TEL:06-6458-5821 FAX:06-6458-6994